

大阪市立 南百済小学校

所在地 〒546-0013 東住吉区湯里1-15-40

電話 06-6701-0207

URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e741695>

校長名 岩倉 孝治



携帯用 スマホ用



標準服 有 集団登校 有



学校概要

校訓、教育目標、目指す子ども像

- ①校訓：自主 創造 協同 責任
- ②教育目標：確かな学力・豊かな人間性・心身ともに健康な子どもを育てる
- ③目指す子ども像
 - 自ら学ぶ子ども（学力向上）
 - 互いの違いを認め合える子ども（道徳心・社会性の育成）
 - いきいきと生活する子ども（健康・体力の保持増進）
 （すべての教育活動の基盤に人権尊重の精神を）

運営に関する計画

- 【子どもが安心して成長できる安全な（学校園・家庭・地域）の実現】
 ○いじめ解消の取り組み充実 ○規範意識の向上 ○自尊感情の醸成
- 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
 ○算数科の充実 ○話し合い活動の充実 ○50m走の記録向上

学力調査結果

	国語A	国語B	算数A	算数B
平均正答率(%)	69	53	80	49

平均正答率については、国語Aは全国の平均を6.2ポイント、大阪市の平均を2.4ポイント下回った。国語Bは全国を4.0ポイント下回ったが、大阪市を0.5ポイント上回った。昨年度と比較すると、国語Aは2.8ポイント、国語Bは3.4ポイント全国平均に近づいた。算数Aは全国を1.4ポイント、大阪市を5.0ポイント上回った。算数Bは全国を2.9ポイント、大阪市を6.8ポイント上回った。

国語全般においては、「漢字を正しく読む」「適切な言葉遣いで話す」を問う設問についてはよい傾向が見られた。しかし、領域では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」において、課題が見られた。目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えたり、必要な内容を整理して書いたりすることや、理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題が見られた。また、漢字のもつ意味を考えて正しく書くことにも課題が見られた。字を正しく読む力は定着しているため、漢字を正しく書く力を定着していく必要がある。字形に注意しながら繰り返し書く練習をすることに加え、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるような指導の工夫が必要である。また、読書週間や読み聞かせなどさらに工夫をしながら、読書に親しむことができるようにする。言語活動の充実を図りながら話し合い活動を活性化させ、目的や意図に応じて話したり書いたりすることができるようにする。また自分の考えが明確になるこ

体力・運動調査結果

種目別 平均値	種目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
男子		17.52	18.45	36.55	39.30	57.45	9.18	152.73	24.36	55.27
女子		16.65	22.29	39.97	39.88	42.53	9.50	137.65	13.56	57.42

男子については、「握力」、「長座体前屈」、「20mシャトルラン」、「50m走」、「立ち幅とび」、「ソフトボール投げ」の平均値が、全国及び大阪市の平均値を上回った。「握力」、「長座体前屈」、「20mシャトルラン」、「ソフトボール投げ」の得点は全国を2ポイント以上上回っていた。しかし、「上体起こし」、「反復横とび」の平均値は、全国及び大阪市を下回った。体力合計点の平均値は全国及び大阪市を上回り、その得点は全国を1.2ポイント上回った。

女子については、「握力」、「上体起こし」、「長座体前屈」、「20mシャトルラン」、「50m走」の平均値が、全国及び大阪市の平均値を上回った。「上体起こし」の得点は全国を6.5ポイント、「長座体前屈」は、全国を3ポイント上回っていた。しかし、「立ち幅とび」と「ソフトボール投げ」の平均値は、全国及び大阪市を下回った。「反復横とび」の平均値は、全国をやや下回ったが、大阪市を上回った。体力合計点の平均値は全国及び大阪市を上回り、その得点は全国を2ポイント上回った。

体育科の授業では、昨年度と同様に、問題解決の流れを大切に。流れの中での、技のコツを共有するための話し合い活動を充実させるとともに、子どもたちの活動を支援するために、ICT機器の活用を積極的に進めた。特に、本年

とが実感できるようにするために、自分の考えがどの叙述に基づいているのかを意識させながら他者と交流する等、指導を工夫する。

算数については、「量と測定」「図形」においてかなりよい傾向が見られた。問題形式では、短答式の設問においてよい傾向が見られた。2つの数の最小公倍数を求める設問、小数と整数の加法、高さが等しい平行四辺形と三角形における底辺と面積との関係への理解や正五角形が5つの合同な二等辺三角形で構成されていることへの理解が必要となる設問、示された条件を基に立式することが要求される設問、資料を二次元表に分類整理する設問等においてよい傾向が見られた。基礎的・基本的な知識・技能の定着が見られるので、始業前や放課後等を利用して、「学習教材データ配信」などを活用しながら基礎・基本の定着を目指した指導を継続する。計算の順序についてのきまりの理解が必要となる設問で見られたような一人ひとりのつまづきをしっかりと把握し、個に応じた指導を進める。言語活動の充実を図り、式や図を関連付けて読み取ったことを整理し、根拠を明確にし、筋道立てて考えて記述することができるようにする。今後は、一人一人の習熟の程度に合った指導を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させていく。授業では、子どもの意欲・関心が向上するように、導入を工夫したり、ICT機器を効果的に活用する。学習内容と実生活との関連、考えに至った根拠を明確にすることを重視する。研究授業や研修会では、学校全体で授業の進め方、ノート指導、板書の仕方などを共通理解し、指導力の向上を図る。

※全国・大阪市の平均についてはP10参照

度は、子どもたちが運動する時間を十分確保した。準備運動においては、走の運動や体を柔軟にする運動を充実させた。全校的な取組みとして実施している縄跳び週間や駆け足週間では、技の紹介をしたり期間を長くしたりするなどして、活動を充実させた。これらの取組を通して、昨年度以上に、運動やスポーツに前向きに取り組むことができるようになった。新体力テストにおいては、多くの種目の平均値が全国や大阪市の平均値を上回るなど、昨年度より全般的によい傾向が見られた。本年度重点を置いて取り組んできた「50m走」については、準備運動を行う際に走の運動を積極的に取り入れたことが功を奏したのか、男女ともによい傾向が見られた。しかし、男女共に「反復横とび」に課題が見られたので、俊敏性が高まる運動をできるだけ多く取り入れて、向上をはかる。

今後体育科の授業では、運動量を十分に確保し、仲間とともに技能や体力の向上を図っていくようにする。また、タブレット端末を活用し、自身の技の動き、姿勢等をお互いに振り返り、課題解決につなげ、更なる体力の向上につなげていく。

また「食育」について、各種の指導やたよりを充実させ、朝食喫食の重要性を知らせていく。

※全国・大阪市の平均についてはP10参照

学校の沿革のうち、特筆すべき事項

明治7（1874）年林覚寺という校区にあるお寺に仮の教室を設け、住吉郡4番小学校として開校。その翌年に校舎が湯谷島という所に建設されました。やがて、東田辺・鷹合・今川・湯里の各小学校が本校から分離・独立していきます。平成23（2011）年度には中運動場が芝生化。平成26年度には創立140周年を迎え、中運動場には低学年用雲ていが設置され、図書館はリフォームされました。平成28年4月に就任した岩倉孝治先生は36代目の校長です。



学校の施設、校舎、運動場の面積

南百済小学校には、「なかうん」、「ひがうん」という愛称で親しまれている2つの運動場があります。前者が中運動場で、平成23（2011）年度に芝生化。児童は芝生の感触を確かめながら、おにごっこなどを楽しんでいます。後者の東運動場では、広大な敷地を生かして、サッカーやドッジボールなどの球技を楽しんでいます。土曜日には児童が安心して遊べるようにと校庭が開放されます。ソフトボール、サッカー、バスケットボール、ラグビーなど社会体育も盛んに行われています。



総合的な学習の時間の内容その他教科

南百済小学校では、ゲストティーチャーを招いて数々の出前授業を実施しています。2年生の「昔遊びの体験」では地域の方々にはけん玉、ビー玉、お手玉、竹とんぼなどの昔の遊び、3年生の「昔の道具体験」では洗濯板を用いた洗濯や七輪を使ったもち焼きなどを教えていただきます。児童は貴重な体験をするだけでなく、地域の方々との交流を深めています。



花いっぱい活動は、10年以上継続されている本校の特色ある活動です。春には、1年生とその保護者が協力してポチュラカやペゴニアなどの苗を保護者といっしょに植え付け、正門付近に並べます。美しい花が来校者を迎えます。秋は、ペア学年での活動。低学年と高学年でペアを組んで、チュリリップ・ヒヤシンス・クロッカスなどの球根を植えます。入学式や始業式を迎える頃にはサクラといっしょに満開になり、新入生及び進級した児童を歓迎しています。なにわの伝統野菜の田辺大根の栽培にも取り組んでいます。

学校図書館等の整備・活動状況、読書活動

活字離れが危惧される中、児童が本に親しみ、読書の習慣が身に付くように、学校・保護者・地域が協力してさまざまな取り組みを進めています。朝の帯タイムを活用した読書や図書ボランティアによる読み聞かせなどはその一例です。平成25（2013）年8月には、よりよい環境で読書に親しませたいという願いのもと、創立140周年の記念事業の一貫として、図書館がリフォームされました。本棚や机のレイアウトが一新され、明るく清潔感あふれる図書館に生まれ変わりました。



家庭・地域との連携

南百済地域では「子どもの安全に関わる積極的な活動を！」という気運が高まり、平成17（2005）年4月、学校・保護者・地域がネットワークを組んで「学校支援子ども見守り隊『まもるんジャー』」が結成されました。黄色いゼッケンや腕章を付けた地域在住の方々がPTA校外指導委員の方々や協力しながら、「ごほうびは子どもたちの笑顔」を合言葉にして、子どもたちの登下校の安全を見守っています。毎年4月下旬にはまもるんジャーの方々と対面式を行い、いっしょに下校するのが恒例となっています。

